せとうちアーキツーリズム ~瀬戸内近現代建築の魅力発信・観光資源化~

かわうち 岡山県 土木部 都市局 建築指導課 川内 秀治

1. はじめに

瀬戸内地域には、戦後復興期以降に、日本を代 表する建築家の手により、数多くの作品が建築さ れた。これらの中には老朽化や耐震性等の問題を 抱え、その役目を終えたものもある。

建築物の安全性や快適性、機能性が重要である ことは論を俟たないが、その一方で、これらの建 築作品は後世に継承すべき地域の貴重な文化資産 とも捉えることができ、その魅力を現代の視点も 取り入れながら発信することで、観光資源として の活用という新たな価値を付与できるのではない だろうか。

本稿では、2017年11月に瀬戸内7県(兵庫、 岡山, 広島, 山口, 徳島, 香川, 愛媛) とせとう ち DMO とで設立した「瀬戸内近現代建築魅力発 信協議会」による瀬戸内地域の近現代建築作品の 魅力発信と観光資源化に関する取り組み「せとう ちアーキツーリズム (建築=アーキテクチュア+ 観光=ツーリズム)」について紹介する。

2. 近代建築の観光資源化に向けた 動き

(1) ル・コルビュジエ建築作品群の世界文化遺産 登録

近代建築の巨匠ル・コルビュジエが手がけた世 界7か国の17資産が、2016年7月に世界文化遺 産に登録された。

国内作品では、東京の国立西洋美術館が含まれ ており, 世界遺産登録により, その価値が再認識 されるとともに観光資源としても注目されてい る。

(2) 前川國男と近代建築ツーリズムネットワーク コルビュジエ作品の世界遺産登録を契機とし,

その日本人一番弟子である日本近代建築の旗手・ 前川國男の作品を有する本県を含む全国の自治体 で「近代建築ツーリズムネットワーク (事務局: 弘前市)」を 2016 年 11 月に設立した (図-1)。

このネットワークでは、前川建築の公開を推進 し、各地域が持つノウハウやイベント等を活用す ることで、前川建築を含む近代建築の観光資源化 を促進するとともに、観光需要の創造に取り組ん でいる。

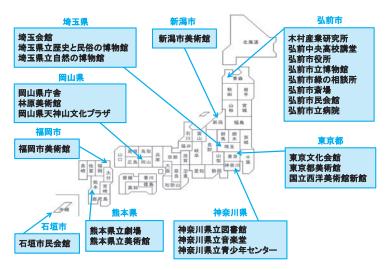


図-1 近代建築ツーリズムネットワーク参画自治体

3. 瀬戸内地域の現状と各県の取り組み

(1) 瀬戸内地域の近代建築

京都工芸繊維大学の松隈洋教授(注)は、瀬戸内地域は「1950年代から60年代にかけて、戦後復興の象徴としての近代建築が次々に生み出された」と指摘する。

松隈教授によると、「戦後の近代建築では初めて国の重要文化財に指定された、広島の世界平和記念聖堂(村野藤吾 | 1954年竣工)と平和記念資料館(丹下健三 | 1955年竣工)は、戦後の日本近代建築の出発点を象徴するマイルストーン」であり、これら戦後近代建築の歩みが、民主的な県政の殿堂を目指した岡山県庁舎(前川國男 | 1957年竣工)や、戦後の庁舎のプロトタイプとも言われる香川県庁舎(丹下健三 | 1958年竣工)などの瀬戸内地域の近代建築の展開につながったと指摘し、このように近代建築が多く残された瀬戸内について、「モダニズム建築の宝箱のように見える」と形容する。

(2) 瀬戸内各県の建築の魅力発信等の取り組み (図-2)

現代においても、安藤忠雄、伊東豊雄、 SANAAなど、世界的に活躍する建築家が、精力的に瀬戸内地域に建築作品を創り出している。 こうした中, 瀬戸内地域では, 各県がさまざまな建築の魅力発信に取り組んでいる。

例えば、広島県では、2013年から「魅力ある 建築物創造事業」を実施し、「ひろしまたてもの がたり」として、県民投票による魅力ある建築の 選定や、公共建築等を一斉に公開する見学イベン ト「たてものがたりフェスタ」を毎年実施してい る。

香川県では、県職員が県庁舎を名刺で PR したり、ガイドツアーを随時実施するなど、県庁舎の文化的価値を精力的に発信している。また、建築作品を中心とした観光パンフレットを作成するなど、建築作品を取り上げた観光に先進的に取り組んでいる。

兵庫県では、安藤忠雄の作品が、淡路島を中心に数多くあり、外国人記者を招聘したファムトリップや、「ミシュラングリーンガイド兵庫」で建築作品を多言語で紹介するなど、海外に向けた魅力発信に積極的に取り組んでいる。

(3) せとうち **DMO**

瀬戸内地域の観光ブランド化を推進するため, 2013年から瀬戸内7県で観光マーケティングや プロダクト開発を推進しており,2016年には「せ とうち DMO」を設立し、地域が主体となって行 う観光地域づくりを推進している。







図-2 瀬戸内各県の取り組み

4. 瀬戸内近現代建築魅力発信協議会 の設立

瀬戸内7県には、地域連携による観光振興に取り組むDMOがある、戦後の日本を代表する建築家の作品が数多く存在している、近現代建築をテーマにした観光の先進事例がある、といった強みがあり、これらを連携させることにより、国内外に向けた魅力発信力をさらに向上させるため、2017年11月に「瀬戸内近現代建築魅力発信協議会(以下、「協議会」という)」を設立した。

(1) 協議会設立の目的

瀬戸内地域には、著名な建築家が手がけた近現代建築が数多く存在しており、これらの魅力を瀬戸内7県とせとうち DMO とで連携して情報発信し、新たな観光資源としての活用を図ることにより、瀬戸内地域のブランド力向上、アートと連携した近現代建築の活用による観光振興とともに、建築文化の醸成による優れた近現代建築の保全や景観形成への好影響に資するものである(表-1)。

表一1 瀬戸内7県の主な建築作品				
県	建築作品〈建築家〉			
兵庫	淡路夢舞台〈安藤忠雄〉 本福寺水御堂〈安藤忠雄〉 若人の広場公園〈丹下健三〉など			
岡山	岡山県庁舎〈前川國男〉 岡山県立美術館〈岡田新一〉 Junko Fukutake Hall〈SANAA〉など			
広島	世界平和記念聖堂(カトリック幟町教会)〈村野藤吾〉 広島平和記念資料館〈丹下健三〉 広島市現代美術館〈黒川紀章〉など			
	宇部市渡辺翁記念会館〈村野藤吾〉 山口県立山口図書館〈鬼頭梓〉 山口情報芸術センター〈磯崎新〉など			
徳島	鳴門市健康福祉交流センター・文化会館〈増田友也〉 あわぎんホール(徳島県郷土文化会館〉〈西山夘三〉 徳島県立図書館〈岡田新一〉など			
香川	香川県庁舎東館〈丹下健三〉 瀬戸内歴史民俗資料館〈山本忠司〉 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館〈谷口吉生〉など			
愛媛	坂の上の雲ミュージアム〈安藤忠雄〉 日土小学校中校舎・東校舎〈松村正恒〉 今治市伊東豊雄建築ミュージアム〈伊東豊雄〉など			

(2) 構成員と実施体制

協議会は、瀬戸内7県の建築、観光の両部局と せとうち DMO で構成する。専門的な分野である 近現代建築の観光資源化という新たな試みである ことから、建築部局が専門的な立場から作品の情報収集やガイド役となる建築団体との連携を行い、観光部局が情報発信への助言や観光団体との調整を担い、せとうち DMO が情報発信やプロモーション等を実施する体制としている(表-2)。

表— 2	瀬戸内近現代建築魅力発信協議会構	成昌
12 4	MR 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	rx. 🖶

役職	県	組織名
	兵庫	産業労働部国際観光課 県土整備部まちづくり局都市政策課景観形成室
代表幹事 (事務局)	岡山	産業労働部観光課 土木部都市局建築指導課
幹事	広島	商工労働局観光課 土木建築局営繕課
	ШО	観光スポーツ文化部観光政策課 土木建築部建築指導課
	徳島	商工労働観光部観光政策課 県土整備部住宅課建築指導室
幹事	香川	交流推進部観光振興課 総務部営繕課
	愛媛	経済労働部観光交流局観光物産課 土木部道路都市局建築住宅課
幹事	せとさ	っち DMO ((一社) せとうち観光推進機構)
アドバイザー	松隈	洋(京都工芸繊維大学 教授)

5. せとうちアーキツーリズム実現に 向けた取り組み

瀬戸内地域における建築観光 (アーキツーリズム) の実現に向け、次のような取り組みを行っている。

(1) 瀬戸内 Archi 情報発信

瀬戸内地域に作品のある日本を代表する7名の建築家(前川國男,谷口吉生,鬼頭梓,増田友也,村野藤吾,安藤忠雄,丹下健三)の作品を各県の「ケンチク女子」が巡って紹介する特集「瀬戸内 Archi(アーキ)」をせとうち DMO のホームページ「瀬戸内 Finder」で、2018年2月から発信している(図-3)。

記事は、一般の、特に若い世代の女性への訴求 を意識し、「インスタ映え」する写真を使用しつ つ、内容では、ケンチク女子が建築のディテール



瀬戸内 Archi | #谷口吉生 | 香川県立東山魁夷せとうち美術館

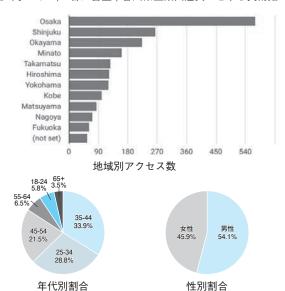


図-3 瀬戸内 Archi 特集写真とホームページ アクセス状況

に着目して紹介し、写真と専門的な情報とのギャップで関心を引く構成としている。また、建物全体ではなく、ポイントに絞って紹介することで、 実際にその場所を訪れてみたくなる仕掛けとしている。

2018年5月末までに、13,000回を超える閲覧があり、その属性は、20~30代を中心とした世代が6割強、男女比がおよそ半々、地域では東京や大阪などの都市圏からの閲覧が多くあり、域外への魅力発信や若い世代の女性への訴求という面では、一定程度の成果があったと考える。

(2) 瀬戸内 Archi シンポジウム ~せとうちアー キツーリズムの魅力と可能性~

2018年3月10日に、「せとうちアーキツーリズム」をテーマとした基調講演やケンチク女子を

交えたパネルディスカッションを岡山 市内で開催したところ, 県内外から約 170名(県内:県外=2:1)の参加が あった (図-4)。

(3) せとうちアーキツーリズムパンフ レット

PR ツールの一つとして、瀬戸内地 域の建築作品や「インスタ映え」を狙 った写真撮影のポイント等を紹介した パンフレットを作成し、瀬戸内地域の 観光施設や東京のアンテナショップ等 で配布している (図-5)。

6. *おわりに*

2018年は、7月の豪雨により、当県を含め広 島、愛媛など、瀬戸内地域の各地で大きな被害に 見舞われ、その対応に追われた年であった。

2019年は、3年に一度開催される瀬戸内国際芸 術祭や岡山芸術交流といった瀬戸内地域での大規 模アートイベントの開催年にあたり、国内外から 瀬戸内地域への注目が高まる年であり、アートや 建築に関心のある方の多数の来訪が期待される。

これを好機と捉え、当県では、4月に県内の近 現代建築作品を紹介するガイドブック「おかやま 建築散歩」の配布を開始するとともに、それらを 紹介する WEB ページを県の観光サイト内に開設 した (図-6)。

協議会としても、各県と連携し、これらのアー トイベントを契機とした情報発信と観光資源化に 向けた取り組みを行っていきたい。

(注) 京都工芸繊維大学 教授 松隈 洋

1980年京都大学工学部建築学科卒業,前川國男建築設 計事務所入所。2000年4月京都工芸繊維大学助教授。 2008年10月同教授, 現在に至る。工学博士(東京大 学)。専門は近代建築史、建築設計論。2013年5月より DOCOMOMO(近代建築の記録・保存に取り組む国際 組織) Japan 代表。文化庁国立近現代建築資料館運営委 員。近代建築ツーリズムネットワークアドバイザー。



図-4 瀬戸内 Archi シンポジウムのチラシと開催状況



図-5 せとうちアーキツーリズムパンフレット



図-6 おかやま建築散歩ガイドブック

岡山観光 WEB〈運営:(公社) 岡山県観光連盟〉 「名建築を巡るフォトジェニックな旅!おかやま建築散歩」 https://www.okayama-kanko.jp /feature/kenchiku/top